40字に母への思いを込めて

8/3　横山かおりさん一筆啓上賞で入賞

「日本一短い手紙のコンクール・一筆啓上賞」（福井県坂井市主催）で、市内在住の横山かおりさん（穂高柏原）の作品が、約３万通の応募の中から15位以内となる「秀作」を受賞しました。８月３日には、同賞資料館の開館に合わせ、坂井市の中学生３人らが市役所を訪れ、横山さんに招待状などを手渡しました。受賞作品は、若くして亡くなった母へ宛てたもので、横山さんは「母が好きだったコスモスの花と明るい性格を重ね、自分への励ましも込めた」と40字の手紙への思いを話しました。

減災の基本は地域から

7/12　市防災講演会

市民の皆さんに防災について理解を深めてもらおうと、防災講演会（市主催）が７月12日、堀金総合体育館で行われました。当日は、兵庫県立大学防災教育センター長の室崎益輝（むろさきよしてる）さんが「安曇野市で起こり得る災害にどう備えるか」と題し講演。室崎さんは、大規模災害では被害を減らす「減災」に取り組むことが重要とし「住む地域の防災計画を作成し、できる対策から取り組むことが大切」とアドバイスしました。会場では、自主防災組織や消防団関係者など約350人が熱心に聴講していました。

漆表現の可能性を探る

7/18　安曇野髙橋節郎記念美術館企画展「うるしのみらい」

安曇野髙橋節郎記念美術館企画展「うるしのみらい」が７月18日から同美術館で始まりました。この企画展では、名誉市民の故髙橋節郎さんに学び、現在、美術系大学で教える皆さんとその教え子の作品が展示されています。初日には、オープニング式典や出品者の皆さんによる作品解説などが行われました。

また、会期中の８月２日には、公開座談会が同美術館で行われ、教え子の皆さんらが髙橋さんとの思い出を振り返りました。髙橋さんから直接指導を受けた東京藝術大学教授の三田村有純（ありすみ）さんは、「髙橋先生は常々、人真似ではいけない。自分だけの考えを形にすることに価値があると語っていた」と当時を振り返り、「伝統ある漆工はこれまで数多くの表現方法が示されてきたが、それでもなお、漆の黒には無限の可能性を感じる」と漆芸の今後を話しました。

本企画展は９月13日まで開催しています。

懐かしい昭和30年代の盆料理を再現

8/1　豊科郷土博物館企画展講座「伝統食を楽しむ」

豊科郷土博物館の講座「伝統食を楽しむ～昭和30年代の盆料理」が８月１日、豊科保健センターで開催されました。この講座は市制施行10周年記念「興味津々あづみのＦＯＯＤ」展の関連イベントとして開催され、豊科地域の農家の女性で構成する農村女性学習会の皆さんが講師となり行われました。

献立は講師を務める平林和子さん（豊科南穂高）が明治45年生まれの姑から受け継いだ料理ノートを基に再現。当日は市民など30人が参加し、昭和37年の新盆で実際に食べられていた天ぷらやお吸い物、酢の物などを作りました。農村女性学習会の横川英子会長は「昭和30年代の食事は遺伝子的に日本人に合っている」と、当時の思い出とともに話しました。参加した相馬康子さん（穂高）は「昭和30年代の料理に興味があり参加しました。サラダに椎茸を入れたのは初めてで新鮮でした」と笑顔で話しました。

未来の演奏家が挑戦

7/25　新進音楽家公開オーディション

若手音楽家に演奏の機会を提供するあづみの新進音楽家公開オーディション（市教育委員会主催）が７月25日、穂高学習交流センター「みらい」で開催されました。このうち、市制施行10周年を記念して初めて設けられたジュニアの部では、13組18人が挑戦しました。４歳から始めたヴァイオリンの実力を確かめたいと申し込んだ寺尾美緑（みのり）さん（三郷小６年）は「ひとりでの演奏は緊張したけれど、上手に弾けました」と話してくれました。今回、選考された演奏者は、来年３月に行われる「あづみのジュニアクラシック音楽会」に出演します。

新「常盤橋」の開通を祝う

7/21　常盤橋開通式

穂高川に架かる主要地方道穂高明科線「常盤橋」の掛け替え工事が完了し７月21日、開通式が現地で行われました。当日は、国や県、市、地元関係者約80人が出席。テープカットなどが行われた後、塚田寶（たから）さん（穂高）３世代夫婦を先頭に出席者が渡り初めをして完成を祝いました。昭和36年完成の旧常盤橋は、幅員が６㍍と狭く、老朽化が進んでいたことから、県では平成20年から掛け替え工事を進めてきました。新「常盤橋」は、車道部分の幅員８㍍と広く、耐震化されており、明科と穂高地域を結ぶ道路として東西軸道路網の強化や交通の利便性の向上、地域間交流の促進が期待されます。